

「やすらぎとにぎわいの輪が協奏するまち」の実現に向けて

# 平成 28 年度 施政方針

平成 28 年 3 月 第 1 回志布志市議会定例会

※同定例会施政方針演説から抜粋したものです。



本田 修一 志布志市長

10年前の平成18年3月の所信表明で私は、市政推進における政治理念として、力みなぎる豊かな「大地の力」と、遠かアジアへ、そして世界へ広がる志布志の「海の恵み」と、そこに任んでいる心豊かな人と人とのふれあいを大切に、「人のエネルギー」の三つを新しいまちのエネルギーとして結果し、輝く志布志市を築く礎にしようと思っております。志布志市の将来像である「やすらぎとにぎわいの輪が協奏するまち」の実現に向け、全身全霊を傾注し邁進する決意を表明いたしました。そして、基本的な考え方を次の五つの視点から申し述べました。

第1に、市民一人ひとりが輝き、「このまちに住んで本当に良かった」と誇りに思える「共生」「協働」「自立」のまちづくり、第2に、旧3か町の力を合わせ、「豊かな大地の力」と「世界へつながる海の恵み」と「心豊かな人のエネルギー」を結果し、三つの力を合わせ融和と協調のまちづくり、第3に、豊かな自然と海に恵まれ、広大な農地を生かした特色ある農・畜・林・水産業の地域資源を核とした地域循環型産業の振興、第4に、「しあわせ・うるおい・健康」で、安心・安全・健康で住みよいまちづくり、第5に、アジア・太平洋諸国、そして世界へ目を向け、新しい発想と企画で、人ももの、技術情報が行き交う「国際交流都市」を目指しての、以上五つの視点であります。

10年前に所信を表明しましたことにつきましましては、着実に一歩一歩ずつ歩を進めることができたと思っております。市民の皆様方の御理解と御協力に深く感謝を申し上げますとともに、私の政治姿勢は、これまで首尾一貫として変わっていないところであり、今後も変わることなく買っていく所存であります。また、今後の志布志市の10年間の夢描きを見据えて取り組んでまいります。

さて、平成26年9月に安倍首相

の寄附額となったところであり、本年度は目標額を20億円以上と設定して取り組んでまいりたいと考えております。20億円、本当に達成できるのかと心配される方もおられるかと思いますが、納税に志布志市に対して応援したいという暖かい「志」を持った方々が日本全国に多数おられるというところで、この応援をしてくれる方々に「志布志の志」を伝えるいさながら目標を達成したいと考えております。国が進めるふるさと納税制度を最大限活用して、本市の財源確保と特産品の販売促進、志布志市のPR等を強化して取り組むために、その体制の整備、強化を図ってまいります。

また、これまで力を入れて取り組んでまいりました、私の取組の柱である日本一づくり、志布志ブランドの確立へ向けた取組が非常に重要であると改めて感じております。これまでブランド推進協議会を10回開催してまいりましたが、より専門的に、より深化、加速させるために、協議会の再編を行い、第2次ブランド推進協議会として昨年12月に本格的にスタートさせました。健康づくり、環境政策ツリー、PM、PR等のグループに、それぞれ外部の専門のアドバイザーを委嘱して、取組を強化し加速してまいりたいと考えております。

日本一づくり、日本一を目指す取組は、市民の皆様が勇気や希望、そして感動を与え、志布志に生まれて良かった、志布志市民で良かったと思わせてくれるものであります。最近におきましては、昨年12月に開催された「全日本歌唱力選手権 歌唱王2016」におきまして、本市出身の坪田俊一さんが見事優勝しましたし、本年1月に東京ドームで開催されました「第6回全国ご当地どんぶり選手権」において、「志布志発かごしま黒豚三昧」井が達朗さんらを獲得し、前回の第3位を上回る成績を収め、次回のグランプリ獲得も見えてきたところであります。また、2月19日から21日の3日間、鹿児島市で開催された第2回鹿児島ラーメン王決定戦においてマルチョンラーメンがシードで出場し、第2位を獲得し第1回ラーメン王の美力を遺憾なく発揮してくれました。

去る1月30日、31日、音楽により若者文化を創り出し、定着させ併せて商店街を活性化させるとともにUIターンを促進し、若者にとつて魅力あるまちづくりとすることを目的に実施しました424フェスにおき

ましては、初めての試みではありましたが、志布志市出身のアーティストが多数出演し若い世代が来場するなど、新しいイベント企画として今後に期待の持てる取組となりました。さらには、日本一早い志布志の夏そばの取組ですが、5年目にして東京都調布市にある深大寺の「夏そばを味わう集い」に招待されるなど、認知度も高まりつつあるところで、「12月31日は年越しそば」をキャッチフレーズのもと、暑い夏を乗り切る縁起物として、6月30日に夏越しそばを食べるといふ食文化を引き継ぎ志布志市から発信してまいります。

この取組は、生産から加工・販売までオール志布志による六次産業化のモデルとなるものと自負しておりますので、本年度におきまして、品質向上に努めるなどさらなる認知度向上に向けて取り組んでまいります。

また、本年度は市民が主役となる取組として「目指せ日本一チャレンジ応援事業」を新たに展開してまいります。これは、日本一を目指す取組に対して支援をするもので、様々な分野において想定外の話題性のある取組等に期待しているところであります。

私が、これまでまちづくりの取組が、所信表明の中で、若者に魅力あるまちづくり、人づくり、仕事づくりを進めるとして地方創生を掲げました。私は、相応な危機感を持ちましたので、志布志市の取組を国のモデルとしてもらうよう内閣府へ足を運び説明を行いました。結果的には地方創生先行型予算については一律の配分となり残念に思ったところですが、しかしながら、職員一丸となって危機感をもって取り組んだ結果、非常に充実した総合戦略が策定できたと感じております。今後はこの戦略に基づいて取組を進め実践してまいりたいと考えております。

このようなかから、「志布志ブランド」の認知度を高めるための情報発信になお一層努めるとともに、引き続き市民の皆様と様々な日本一づくりを確実に達成するための施策を実践し、果敢に挑戦してまいります。

私は、志布志市の将来像であります「やすらぎとにぎわいの輪が協奏するまち」の実現のために誠心誠意、全力を傾注する覚悟でありますので、これまで同様、議会の皆様をはじめ市民の皆様への御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。